

# 2026年3月期決算説明資料



2026年5月14日

株式会社坪田ラボ

# VISIONary INNOVATIONで 未来をごきげんにする

当社は、“VISIONary INNOVATIONで未来をごきげんにする”というパーパスを掲げ、近視、ドライアイ、老視、脳疾患などに対する科学的根拠に基づく革新的ソリューションの創出に取り組んでいます。慶應義塾大学医学部発の研究開発型ベンチャーとして、社会課題化する視機能や脳疾患に挑み、社会的意義と経済的価値の両立を目指しています。

「VISIONary INNOVATION」は、“視機能”に関わる疾患への深い“洞察”（“Vision”）、と未来を見据えた先見性と革新性（“Visionary”）を融合させた当社の中核的価値観です。ScienceとCommercializationの掛け合わせにより未来志向の医療・ヘルスケア製品の創出を目指す、坪田ラボ独自の経営哲学です。

## 目次

---

- 1 2026年3月期実績ハイライト
- 2 パイプライン・事業の進捗
- 3 2027年3月期業績予想
- 4 成長戦略
- 5 Appendix



1

2026年3月期実績

---

# 2026年3月期の概要・トピックス①

---

## □ 2期ぶりの減収・赤字決算

契約一時金の未計上により売上・利益ともに計画未達

- 業績下方修正の主因：大型契約の期ズレ
- 費用面はコントロール継続、研究開発投資は維持

## □ TLM-018関連製品の上市

## □ ハーバード大学の研究を基盤にしたサイエンスコスメ「aeonia」国内独占販売開始

## □ 坪田が「The 2026 Moacyr Álvaro Gold Medal」を受賞

# 2026年3月期の概要・トピックス②

## □ 研究開発の進捗：主力パイプラインは着実に進展

- TLM-001：Phase 2a 開始（想定適応症：マイボーム腺機能不全）
- TLM-003：Phase 2 被験者組み入れ完了（想定適応症：近視）
- TLM-017：特定臨床研究開始（想定適応症：眼GVHD）
- TLG-020：特定臨床研究開始（想定適応症：網膜色素変性症）
- TLG-001：国内臨床試験終了（想定適応症：近視）
  - 安全性懸念は認められず、対象セグメントにおいて有効性が示唆された（過去データとの比較）ものの、FAS\* では Primary Endpoint 未達
  - 導出先企業による中国での臨床試験実施を準備中

※FAS（Full Analysis Set：最大の解析対象集団）

# 損益計算書（P/L）の概要

（単位：百万円未満切捨て）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	前年比増減	増減率%
売上高	673	1,357	200	△1,157	△85.3
営業利益	△649	235	△787	△1,025	—
経常利益	△636	281	△760	△1,044	—
当期純利益	△641	205	△761	△966	—
研究開発費	205	254	277	23	9.3
販管費トータル	670	941	919	△22	△2.3

## POINT

- 複数のライセンス契約において交渉長期化。当期中の締結に至らず赤字で着地
- 事業進展に伴い従業員を増員するも、販管費は適切に効率化
- 研究開発の順調な進捗に伴い、研究開発費は将来成長に向け戦略的に継続

2

パイプライン・事業の進捗

---

# 研究・開発の進展

※2026年5月時点

コード	想定適応症	パートナー	基礎研究	前臨床試験	臨床研究	臨床試験			申請	上市	直近のステータスからの進展
						Phase 1	Phase 2	Phase 3			
TLM-001	マイボーム腺機能不全	maruho					●→				P2準備中 → P2a FPI
TLM-003	近視	ROHTO <sup>※2</sup> Théa <sup>※3</sup>					●→				P2準備中 → 国内外ともに P2 FPI
TLM-017	角結膜障害	交渉中			●→						臨床試験準備中 → 臨床試験 FPI
TLM-018	OTC 点眼薬	ROHTO							●→		申請中 → 上市
TLM-023	近視	交渉中		●→							前臨床試験の実施中
TLG-001 <sup>※1</sup>	近視	JINS BYPT <sup>※4</sup>								●	P3 LPO達成 → 追加治験検討中
TLG-003 <sup>※1</sup>	円錐角膜	未定			●						
TLG-005D	うつ病	交渉中				●					特定臨床研究終了
TLG-005P	パーキンソン病	未定				●					特定臨床研究終了
TLG-020	網膜色素変性症	未定			●→						臨床研究倫理委員会承認 → 臨床研究 FPI
TLG-021	月経不順	未定				●					LPO達成

※1 バイオレットライト関連製品 (TLG-001、TLG-003) については、関連特許に加え、基本特許で保護。基本特許は日米中台韓で登録、欧韓星で出願中

※2 国内、台湾、ベトナム、インドネシア ※3 Laboratoires Théa (米、欧)

※4 Beijing Yijie Pharmaceutical Technology (中国、香港、マカオ、台湾)

# 研究・開発の進展

---

## □ 眼科領域の2製品(TLM-001,TLM-003)でPOC試験を進行中

有効性の可能性を見極める重要な臨床段階にあり、今後の開発方針を判断するうえで重要な試験と位置付けています。

## □ 新規パイプライン製品TLM-017で特定臨床研究を実施中

小規模な探索的臨床研究ですが、予備的な有効性を検討し、今後の本格的な臨床開発につなげるための重要なステップです。

## □ 次世代近視進行抑制薬TLM-023を前臨床で評価中

既存治療とは異なる新たなアプローチによる近視進行抑制の可能性を検証。将来の有望なパイプライン化を目指しています。

## □ バイオレットライトの新たな応用可能性としてTLG-020を評価中

TLG-020では**網膜色素変性症領域**での可能性を検討しています。

バイオレットライトの新たな医療応用として、現在、ヒトにおける安全性の確認を進めており、バイオレットライト技術の適応拡大に向けた基盤づくりを行っています。

# TLM-001（マイボーム腺機能不全治療薬）：Phase 2a試験開始

- マルホ（株）がPhase 2a試験開始
  - 開発加速に向けた重要マイルストーン達成
  - 新規作用機序によるドライアイ治療薬創出へ前進
  
- TLM-001について
  - ビタミンD関連物質を用いた眼軟膏製剤
  - マイボーム腺機能を改善し涙液油層を安定化
  - 「目の乾き」「異物感」等の改善を目指す
  
- マルホ（株）と日本・米国・欧州・アジアでライセンス契約締結

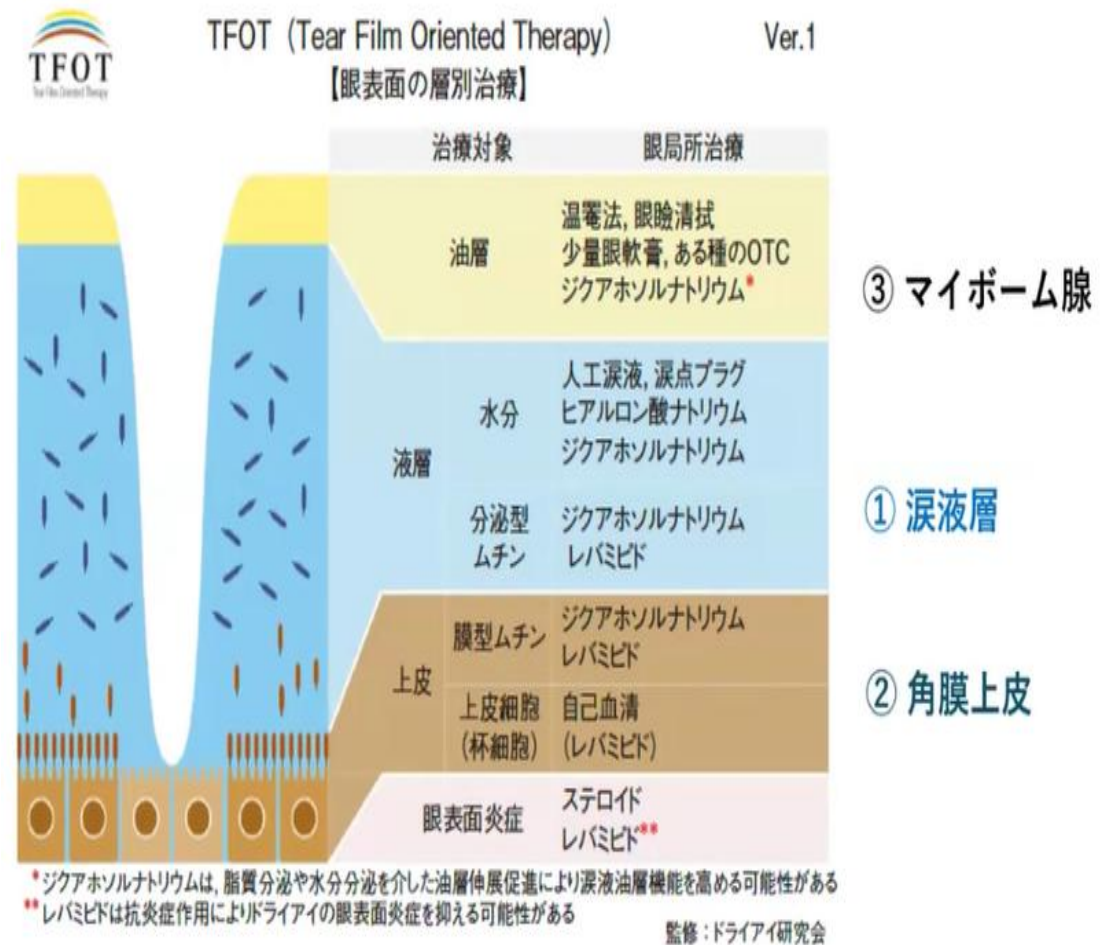


図 9 眼表面の層別治療(TFOT)の概念図.  
(ドライアイ研究会ホームページ <http://www.dryeye.ne.jp/tfot/index.html> より転載)

# TLM-003（近視進行抑制点眼薬）：国内外でPhase 2へ前進

---

## 【国内】

- 〇ー卜製薬が国内第2相試験開始
- 近視患者を対象に有効性・安全性を評価
- 強膜菲薄化抑制による近視進行抑制を目指す

## 【海外】

- Théa社が国外第2相試験を開始
- 2026年1月にFPI実施
- 欧米市場展開に向けた重要ステップ

# TLM-017：特定臨床研究開始

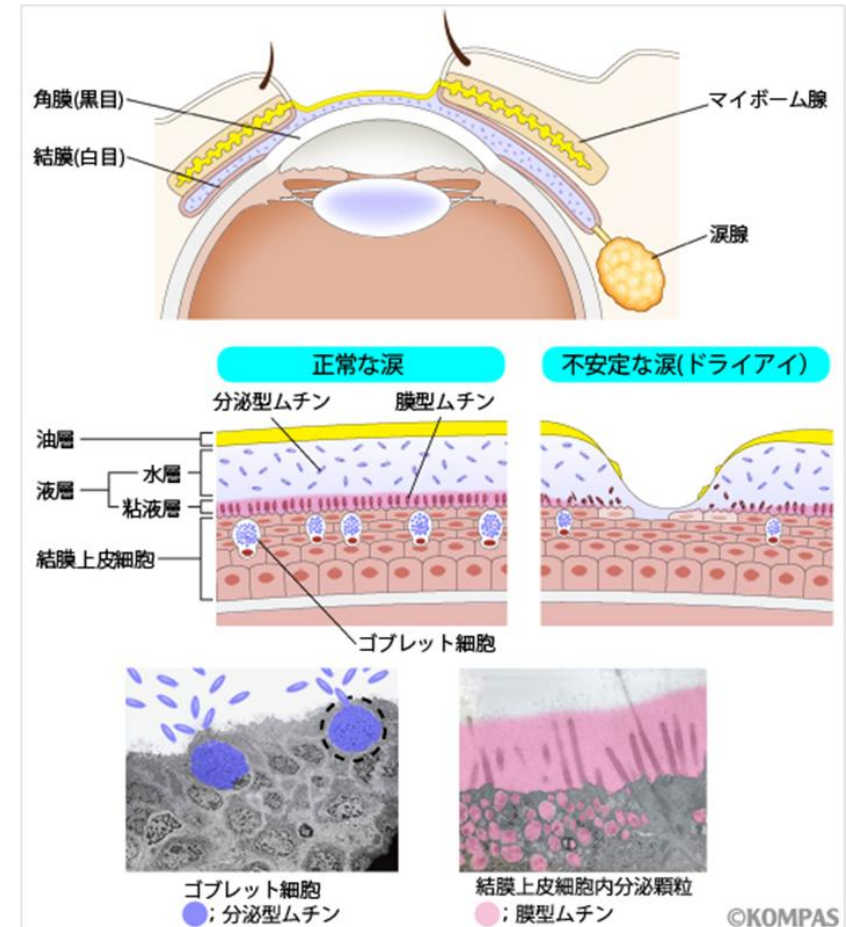
## TLM-017は、高い有効性と長期投与を可能にする安全性の両立を目指す

眼GVHDによる角結膜障害（重症ドライアイ）を対象とした点眼薬候補

- 眼GVHDは**慢性GVHD患者の約20～60%で発症**
- 既存ステロイド治療は緑内障・白内障や感染症リスクが課題
- TLM-017は**幹細胞機能に着目した新規点眼薬候補**
- 有効性と安全性の両立により**長期治療継続**を目指す

### 期待される作用

炎症抑制 / ドライアイ症状の軽減



引用：慶應義塾大学病院 KOMPAS医療・健康情報サイトより

# TLG-001J : 主解析結果の概要

- 高い安全性を確認 (対象セグメントにおいて)
- **医薬品 (0.01%アトロピン点眼) と同程度の有効性を確認 (過去データとの比較)**

## 調節麻痺下他覚的屈折値 (等価球面度SE)

- 全体 : 2群間での有意差を認めなかった
- 被験機器・対照機器の両群とも既報の0.01%アトロピン点眼とほぼ同等

## 眼軸長

- 全体 : 2群間での有意差を認めなかった
- 被験機器・対照機器の両群とも既報の0.01%アトロピン点眼とほぼ同等

## 脈絡膜厚

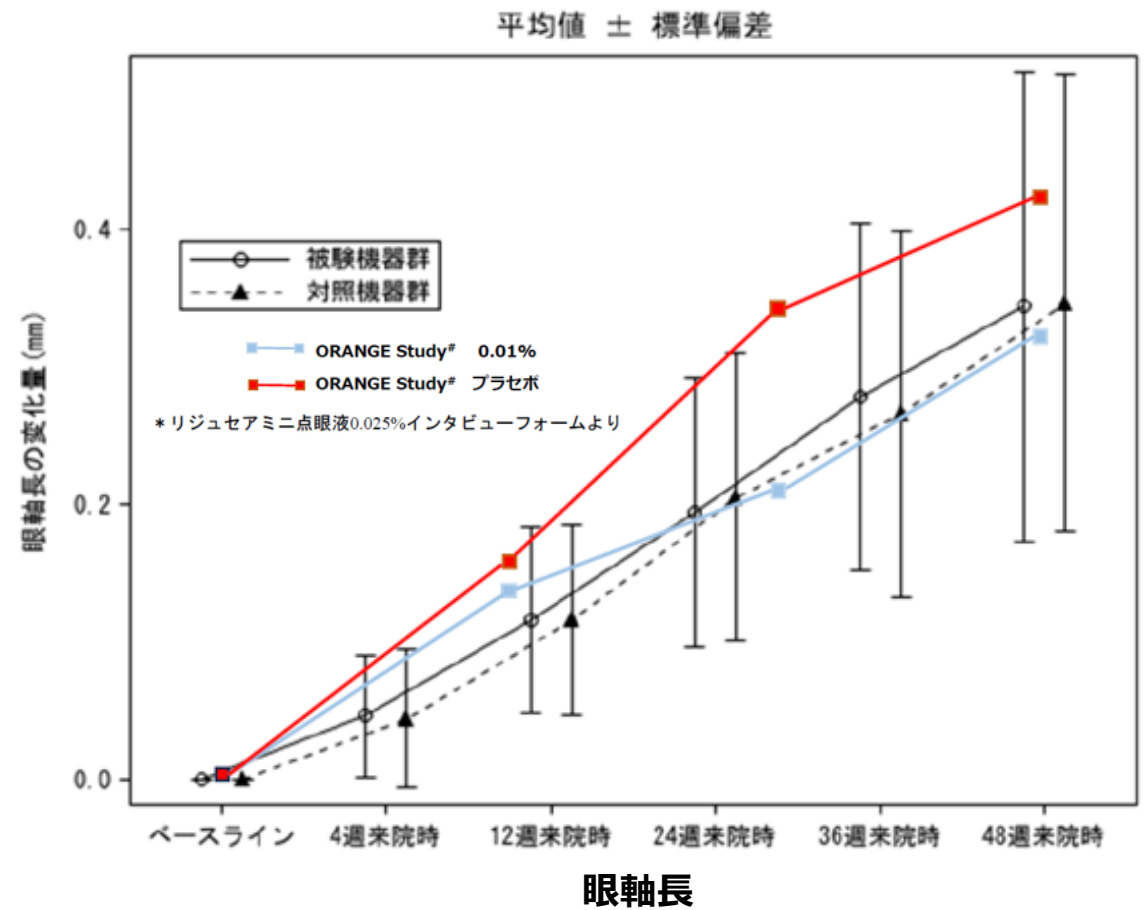
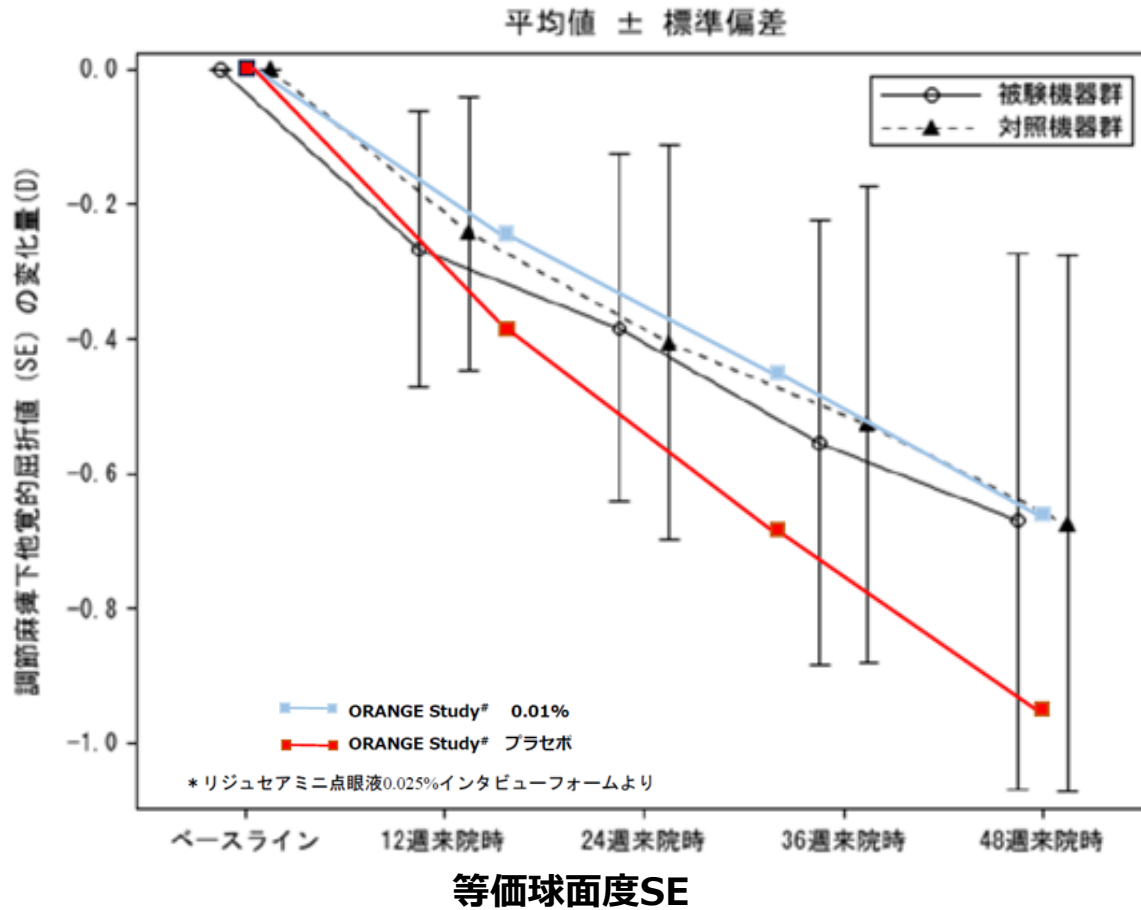
- 全体 : 2群間での有意差なし
- 一般的に、近視の児童は脈絡膜厚が薄くなるが、両群とも脈絡膜厚はほぼ維持された

層別解析を実施した結果、

**屋外活動時間が短い被験者群では、眼軸長および調節麻痺下屈折値の両方で近視進行抑制が示唆される結果が確認された**

**対象機器群での、既報と同程度の有効性は、屋外活動による影響の可能性を示唆**

# 既報の0.01%アトロピン点眼との比較



全体：2群間での有意差を認めなかったが、

**被験機器・対照機器の両群とも既報の0.01%アトロピン点眼とほぼ同等**

# TLG-020 : 特定臨床研究

## TLG-020は、安全性が高く、遺伝子変異の種類を問わない治療を目指す

網膜色素変性症の進行を遅らせる医療機器候補

- 網膜色素変性症は、遺伝要因が発症に起因する進行性疾患
- **原因遺伝子は100を超え、有効な治療法のない**指定難病
- 夜盲や視野障害で、進行すれば失明してしまう。日本における**成人視覚障害原因の第2位**
- 数年前にルクスターナという治療薬が誕生。治療費は両眼で約1億円、すべての遺伝子変異は対象としていない
- TLG-020は**安全かつ遺伝子変異の種類を問わない**
- マウスモデルにおいて、**バイオレットライトを照射したマウスは、網膜の機能の改善が見られた**



バイオレットライトを照射する眼鏡型デバイス

### 期待される作用

脈絡膜の厚みを維持し、症状の進行抑制

# グローバル事業開発（導出・契約）の進捗状況

コード	想定適応症	日本	中国	アジア	欧州	米国	その他(南米など)
TLM-001	マイボーム腺 機能不全						
TLM-003	近視		非開示				
TLM-017	角結膜障害	自社開発	詳細協議	探索	協議	協議	協議
TLM-018	OTC 点眼薬						
TLM-023	近視	協議	探索	探索	探索	探索	協議
TLG-001	近視		BYPT※	詳細協議	協議	協議	
TLG-003	円錐角膜	探索	探索	探索	探索	探索	
TLG-005D	うつ病	協議	探索	探索	協議	協議	
TLG-005P	パーキンソン病	探索	探索	探索	協議	協議	
TLG-020	網膜色素変性症	自社開発					
TLG-021	月経不順	自社開発					

※ Beijing Yijie Pharmaceutical Technology Co., LTD.

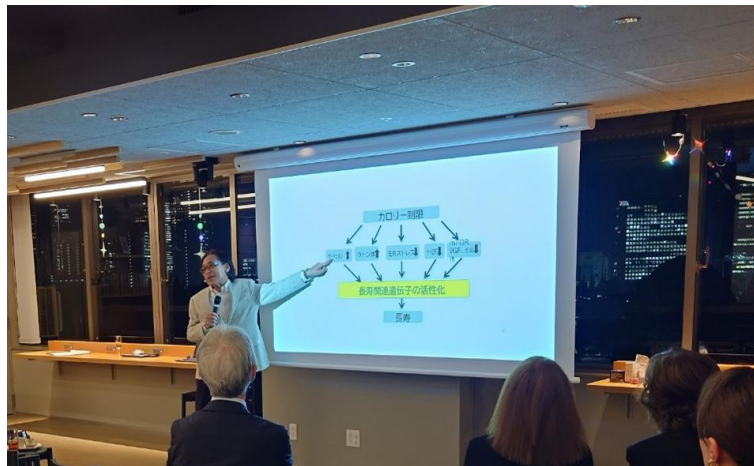
# ハーバード大学の研究を基盤にしたサイエンスコスメ「aeonia」

抗加齢医学も専門とする坪田一男 × エイジングケア化粧品



## 収益構造の多角化

- aeoniaはハーバード大学の研究を基盤にアメリカの「Delavie Sciences」が開発したサイエンスコスメ
- **エビデンスに基づいた長寿遺伝子学や極限環境生物学の研究知見から誕生**
- 坪田ラボは国内独占販売権を取得



2025年11月に医師向けのお披露目会を実施 Instagram



# 坪田が「The 2026 Moacyr Álvaro Gold Medal」を受賞

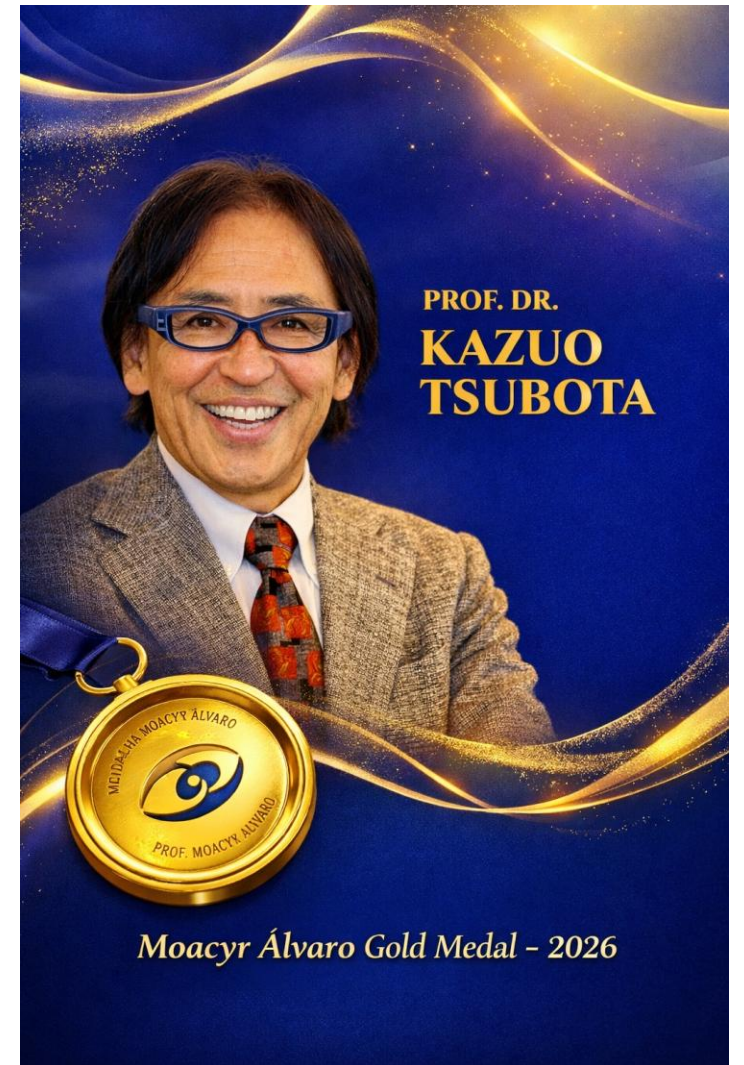
## The 2026 Moacyr Álvaro Gold Medal

ブラジル眼科学界における最高峰の権威を誇る名誉ある賞

ブラジル眼科学の礎を築いたモアシル・アルヴァロ博士に由来

### 【学会概要】

- 学会名：第48回SIMASP
- 開催日時：2026年3月4日～7日
- 開催地：ブラジル サンパウロ
- 規模：2,500名を超える参加者
- 坪田は4つの講演を実施



SIMASP公式サイトより

3

## 2027年3月期業績予想

---

# 次期業績見通しと持続的成長への取り組み

## 既導出の進展 + 新規契約交渉の継続：医薬品5プロジェクト・医療機器6プロジェクト

- 研究：新規プロジェクト創成
- 臨床開発：臨床ステージプロジェクトの着実な進捗（臨床試験、臨床研究）
  - TLM-001（マイボーム腺機能不全治療薬）Phase2a のLPO見込み
  - TLM-003（近視進行抑制点眼薬）Phase2のLPO見込み
- 導出：国内外における積極的な交渉継続

## 新規事業領域

- 化粧品事業の拡大で、安定的な収益源の確保
- ReLight Tech® “Light For Life” 新領域への挑戦
- 2026年は「近視治療元年」
  - 近視による経済的損失が問題視されており、近視治療への注目度が高まっている
  - ➡坪田ラボのライセンス交渉に追い風

# 2027年3月期の通期業績予想の概要

## R&D投資を拡大しながら、黒字を確保へ

(単位：百万円未満切捨て)

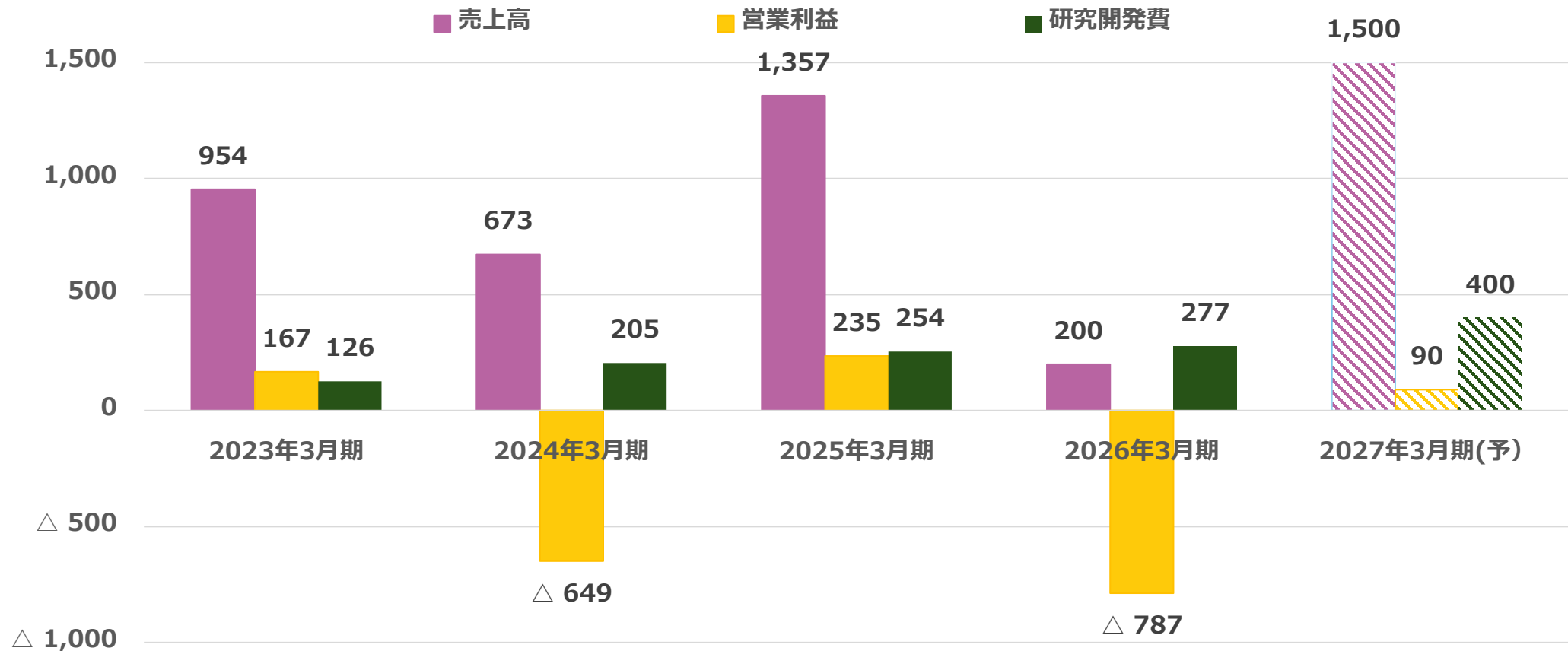
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	前年比増減
売上高	673	1,357	200	1,100~ 1,500	949~ 1,349
営業利益	△649	235	△787	5~50	792~837
経常利益	△636	281	△760	45~90	805~850
当期純利益	△641	205	△761	45~90	806~851
研究開発費	205	254	277	400	122
研究員数*	38	43	49	NA	

※ 社外の業務委託研究員を含む。

必要なスキルを有した外部研究員を活用することにより、研究開発を推進し、且つ、コストの流動化を実現する。

# 2027年3月期売上見通し

## 売上高11~15億円 黒字転換へ



# 2026年度からの坪田ラボの進化

	～2025年	2026年度以降
事業モデル	研究開発型	事業開発型（CCC）へ
収益モデル	アーリーステージ導出	レイターステージ導出
顧客	BtoB中心	BtoB + BtoC
強み	パイプラインの価値 (医薬品・医療機器)	クロスドメイン戦略 (医薬品・医療機器・ヘルスケア)

坪田ラボは、眼・光・老化を科学し、医薬品・医療機器・ヘルスケアへ展開する、  
ビジョナリー・イノベーション企業である

# 新規事業領域「ReLight Tech™」

光環境の再定義に着目したヘルスケア事業

## ReLight Tech事業



ディスプレイ領域

第2領域

第3領域

...

※第2領域以降は今後の事業構想であり、現時点では検討段階のため、進捗状況により内容が変更となる可能性があります。

# 東北大学との共同研究成果によるディスプレイ領域への挑戦

## 【背景】

現代は健康維持に重要な屋外光が不足しており、屋内照明やディスプレイにはバイオレットライトが含まれていない。

そこで、日常使用するディスプレイに装着可能な、バイオレットライト照射型ヘルスケアデバイスを開発。

## 【開発技術】

### バイオレットライト対応マイクロLEDディスプレイ

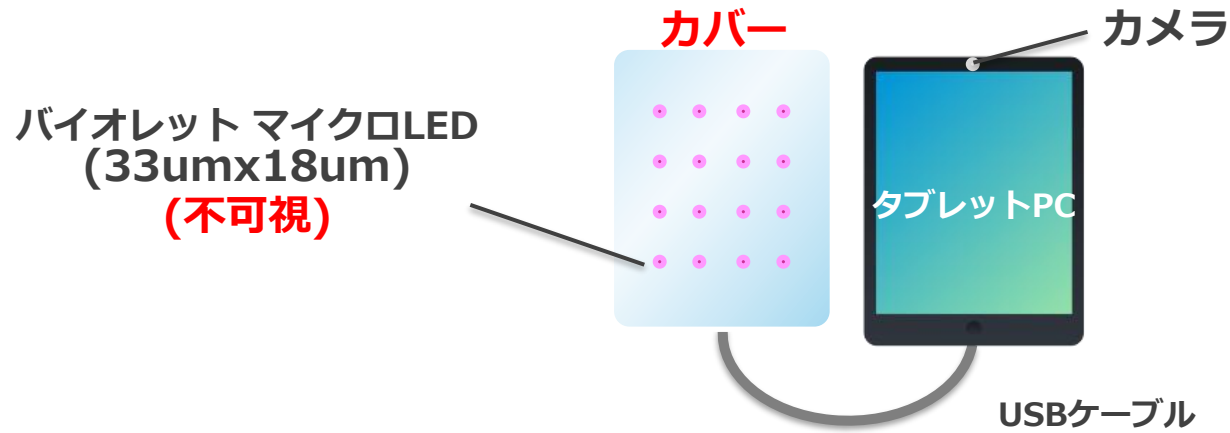
- 東北大学との共同研究
- 従来のディスプレイの表示品質を維持しながら、バイオレットライト照射を実現

## 【本技術の特徴】

- 既存ディスプレイのうえに配置可能
- 視認性を損なわない（透明LEDディスプレイ）
- ユーザーとの距離に応じた照射の強さの制御機構

# 開発技術：バイオレットライト対応マイクロLEDディスプレイ

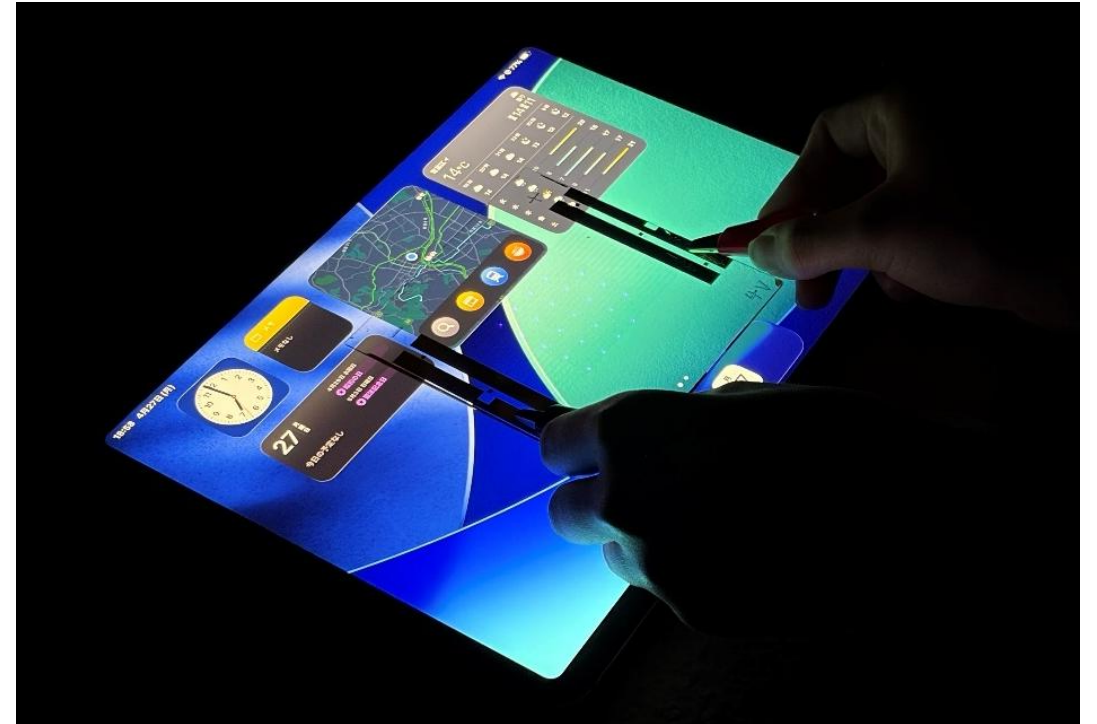
## 既存ディスプレイにバイオレットライトLEDを発光するカバーを装着



### 【製品使用イメージ】



ユーザーとの距離に応じて照射の強さを制御



タブレット端末 (iPad) に本技術で製作したバイオレットライトを照射可能なマイクロLEDを搭載した透明ディスプレイを張り付けて、LEDに電流を流して点灯している様子。iPadの画像視聴を妨げず、バイオレットライトが照射されている。

# 非医療領域における“光×健康”ビジネスの創出

世界最大級のディスプレイ学会であるSID Display Week 2026にて、バイオレットライト対応ディスプレイ技術を招待講演として発表。  
従来の表示品質中心の設計に対し、**「健康科学に基づく光環境設計」という新たな付加価値を提案。**

## 【発表概要】

- 演題：Beyond Image Quality: Violet-Light-Enabled Displays for Visual Health
- 発表日：2026年5月7日
- 開催地：米国ロサンゼルス

## □ 今後の展望

- 現時点では研究開発段階だが、将来的にディスプレイ・教育機器・ウェアラブルデバイスなどへの応用を目指す
- 医薬品・医療機器に続き、**第3の収益構造の軸**として、事業化とライセンス提供等を推進

4

成長戦略

---

# 経営戦略 1. クロスドメイン戦略 (医薬品 + 医療機器 + ヘルスケア)

確かなサイエンス (科学) を最適な形にして開発・導出・販売

点眼薬 (医薬品)    バイオレットライトデバイス (医療機器)

既存事業

ヘルスケア

新規事業



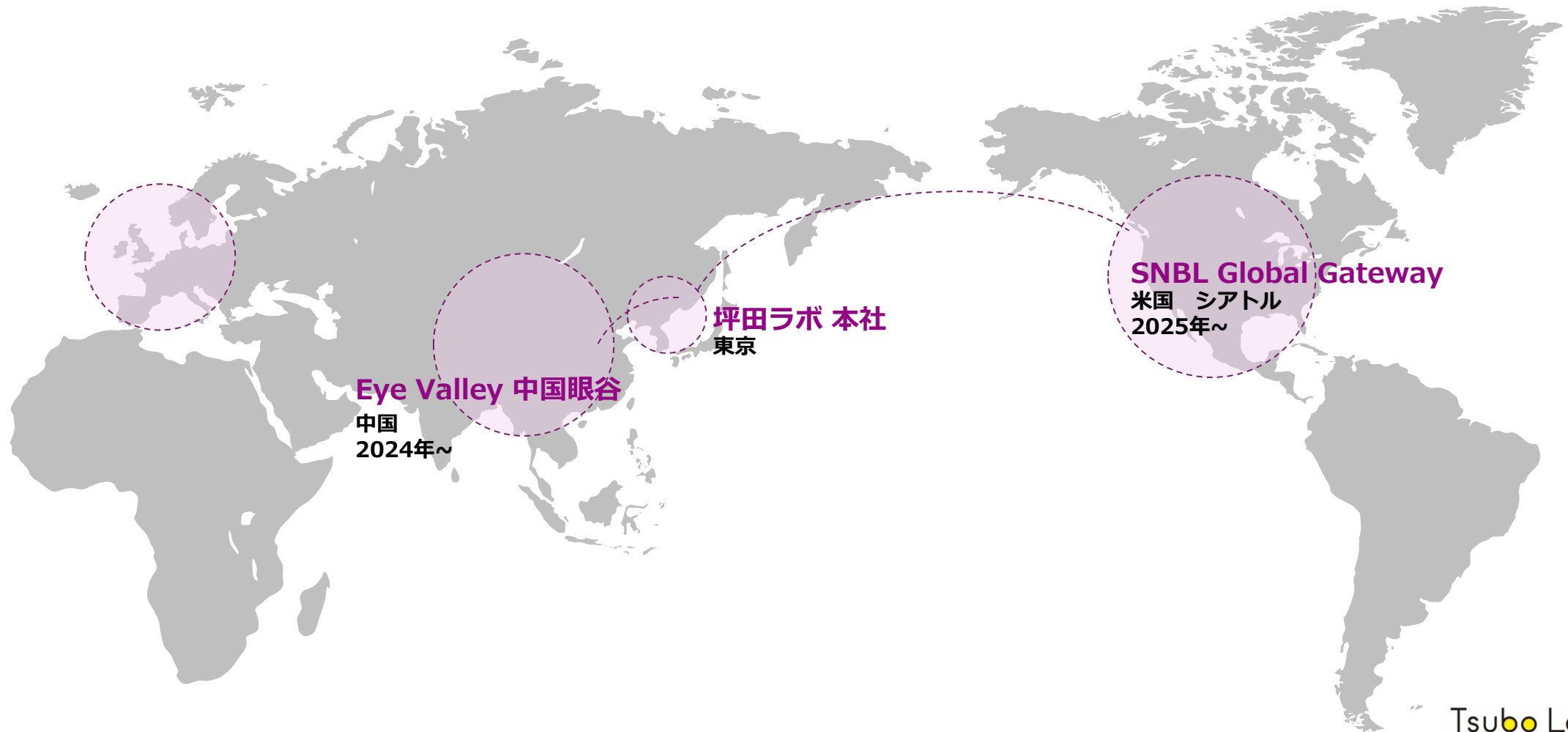
眼科領域 (近視、ドライアイ、老視) + 脳中枢領域

サイエンスコスメ (化粧品)  
エイジングケア領域

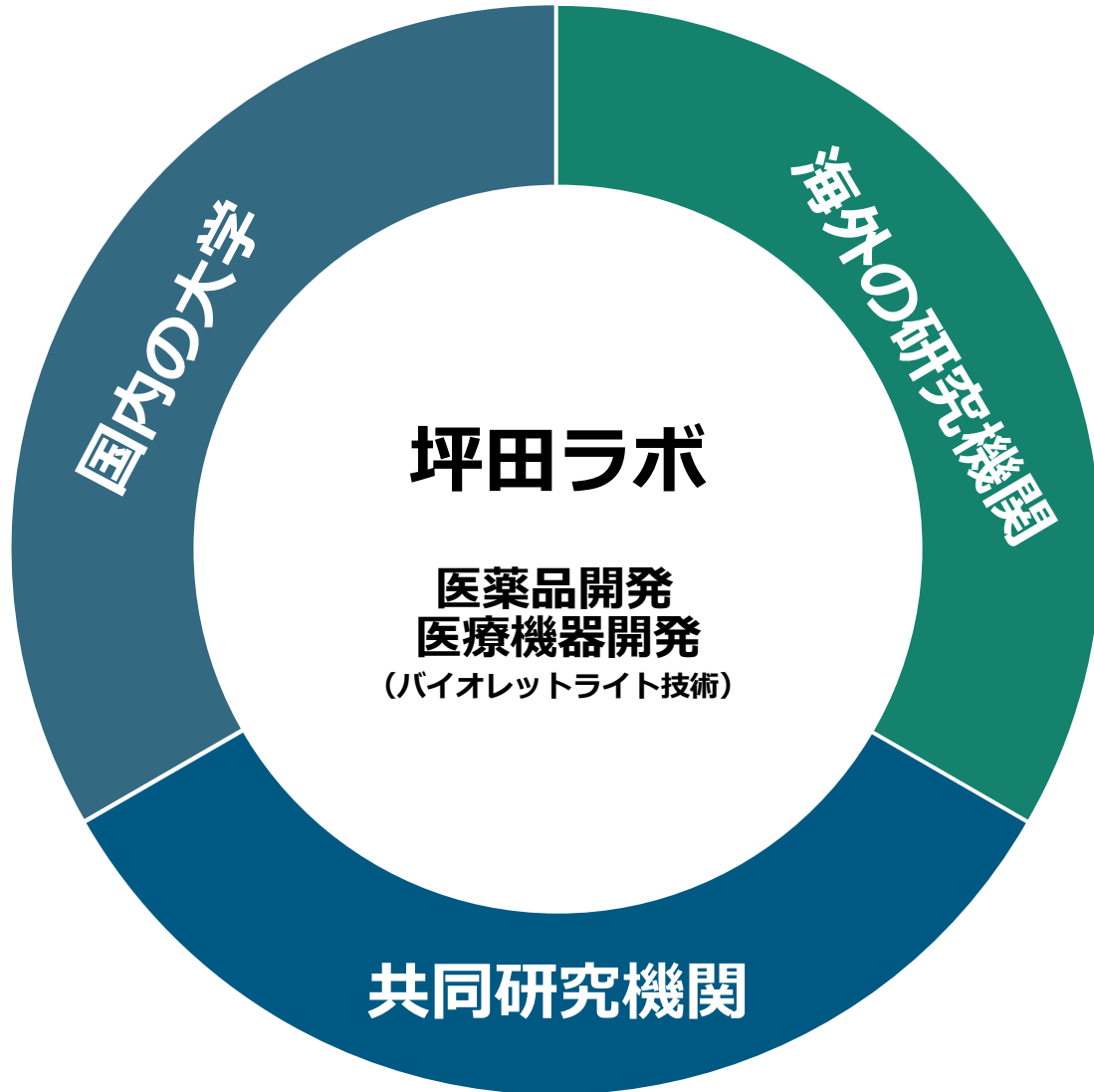
ReLight Tech  
光環境領域

## 経営戦略 2. グローバルな事業開発

グローバルで各地域での最適なパートナーと事業開発交渉を強かに推進  
中国・アメリカにオフィスを設置し、地域展開を加速



# 経営戦略 3. 当社独自の研究開発モデル – CCC



外部有カアカデミアと、共同で最先端研究を実行

## コ・クリエーション コア CCC: Co-Creation Core

最小限の自前のアセット（研究員・研究施設）で、最大の成果を迅速に創出するための、坪田ラボ独自のR&Dモデル

大学や研究機関の革新的な研究活動を助成する制度（T-SBIR）を活用。成果を、当社と大学や研究機関が共同で特許出願し、当社が事業化する。

眼科疾患の新パイプライン発掘に加えて、バイオレットライトの脳神経疾患へ展開している。

# 第3回 つぼラボ学会開催！ ～基礎研究分野の充実～

約60名の共同研究者の方々がCRIKに集結し、坪田ラボとどのような研究を行っているのか、どう開発につなげていくのかを議論する場。

共同研究型ベンチャーとしての新たな価値の創出の起点となる。



# 強固な知的財産基盤と圧倒的な研究開発力

特許件数 **65件** うち、32件が登録済み

近視

**36件**

老眼

**2件**

ドライアイ

**14件**

その他

**13件**

※同じ案件で国内外に出しているものは1件とカウント

既存のもののみカウント

坪田ラボ（株式会社ドライアイKT、有限会社坪田含む）が出願人のもの及び慶應が出願人で坪田ラボが優先的に事業実施できるもの

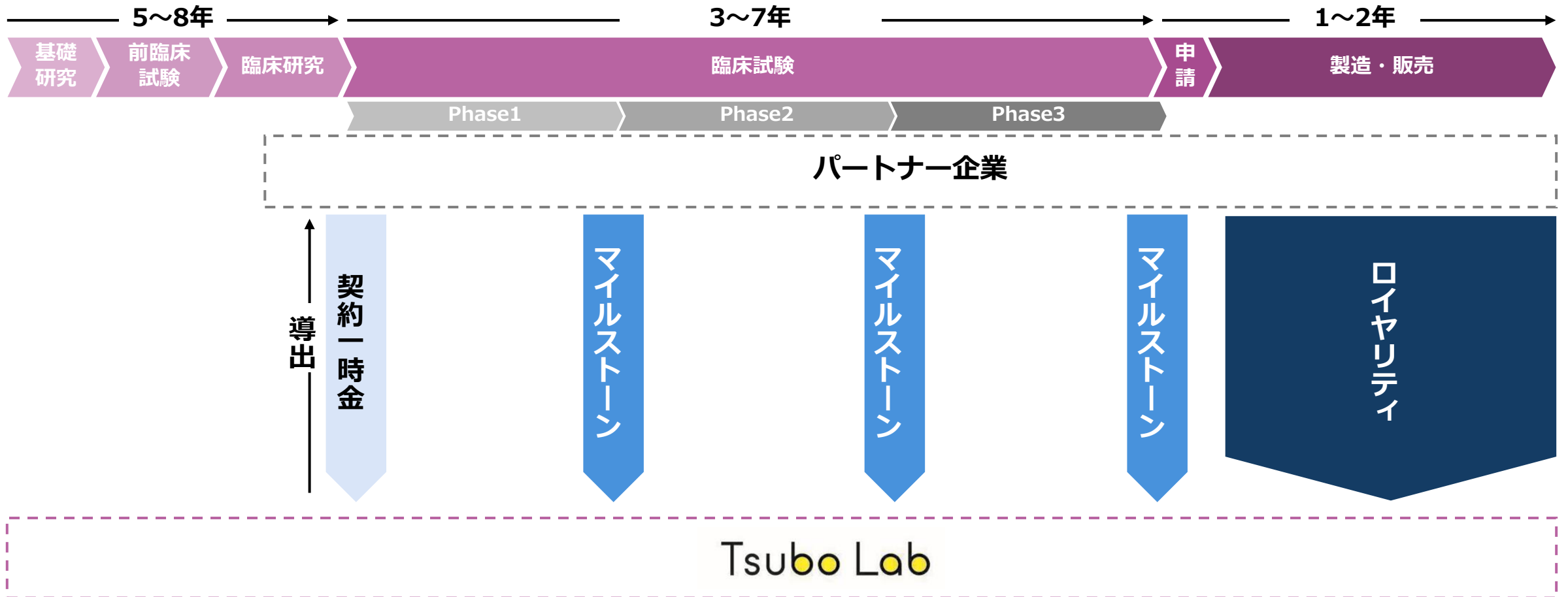
他社との共同出願のものは含む

他社のみでの出願のものは除く

ファミリーはまとめて1カウント

# 一つのプロジェクトでの収益獲得イメージ

- 契約一時金：契約締結時に受け取る収入
- マイルストーン：開発の各段階をクリアすることで得られる成功報酬
- ロイヤリティ：製品販売後、売りにげに比例してはいる継続収入



# 2027年3月期にご期待いただきたい事項

---

## Pharmaceuticals

1

TLM-001 の国内Phase 2a 試験 LPO

---

2

TLM-003 の臨床試験の進展（日本、Europe、中国）

---

3

TLM-023 の新規導出契約

---

## Medical Device

4

TLG-001 の国内臨床試験 CSR

---

## Consumer

5

サイエンスコスメ「aeonia」の販売加速

---

# 5

## Appendix

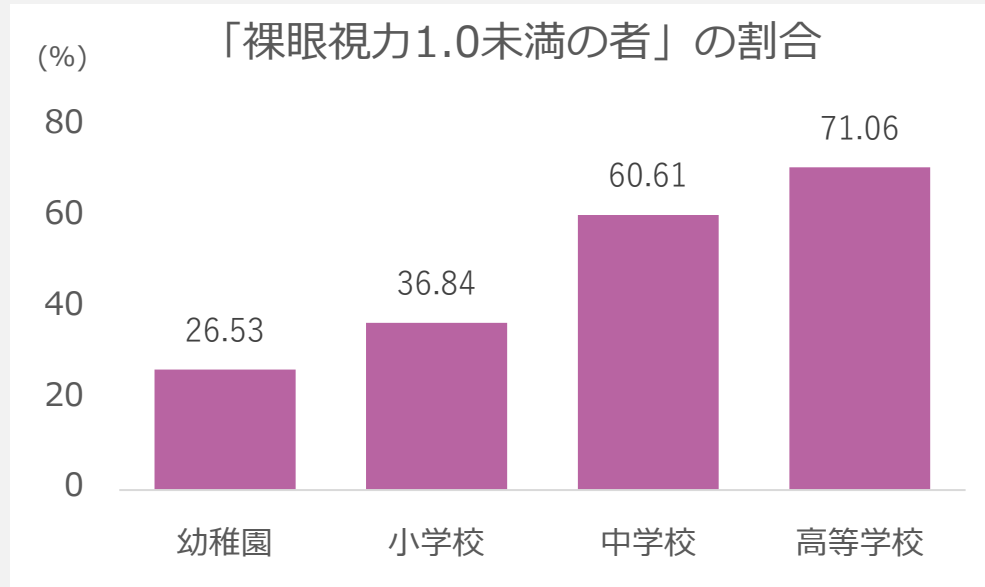
---

# 近視市場の急速な拡大

近視人口は世界的に急増しており、  
WHOは2050年には世界の50%が近視になると警鐘を鳴らしている

## 児童の近視割合

日本の高校生は**7割**が近視。  
経済損失年15兆円、**2026年は近視治療元年と注目**  
中国では、近視が深刻な社会課題となっており、  
「青少年近視予防法案」が2018年に発布された。

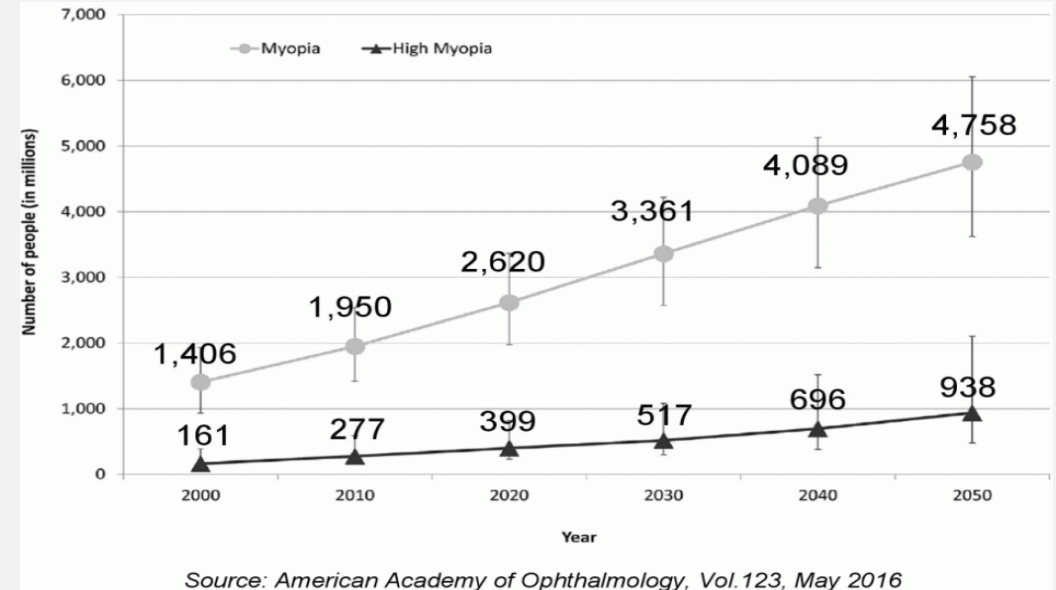


※文部科学省「令和7年度学校保健統計」

## 世界の近視人口の予測推移

2000年に14億600万人だった近視人口は、  
2050年には47億5800万人にまで増加すると予測  
されている。

→10人に1人が失明のリスクを抱える



※Brien Holden Vision InstituteおよびUniversity of New South Walesでの研究の  
調査結果 2016年5月

# ドライアイ、脳・中枢領域の市場

## ドライアイ

### 発症要因

加齢、デジタルデバイス使用（まばたき減少）、乾燥環境、コンタクトレンズ装用により涙液の安定性が低下。

→**目の現代病**とも呼ばれている

### 症状

乾燥感、異物感、疲労感、痛み、かすみ（視機能低下）

### 世界の患者数

約**5～34億人**※

※日本国内だけでも約2,200万人が罹患。  
診断基準や地域によって有病率に幅があるが、最大で人口の約半数に達するという報告もある  
全世界の患者数は各種疫学データ等をもとに当社が推定値を算出

## 脳・中枢（うつ病・パーキンソン病）

### 発症要因

うつ病：心理的ストレス、環境要因、遺伝的素因に加え、脳機能・神経回路の変化が関与

パーキンソン病：加齢を背景に、ドパミン神経変性、異常タンパク（ $\alpha$ シヌクレイン）蓄積、遺伝的要因が関与

### 症状

うつ病：抑うつ気分、興味・喜びの喪失、意欲低下、睡眠障害、食欲変化  
パーキンソン病：振戦、筋強剛、動作緩慢、姿勢反射障害

### 世界の患者数

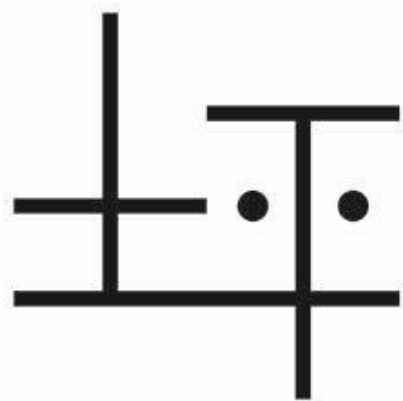
約**2億9000万人**※

（内訳：うつ病 約2.8億人+パーキンソン病 約850万人）

※患者数出典：WHO 最新Fact Sheet、およびグローバル疫学予測（Dorsey et al.）に基づく  
2025年時点の推計等を合算して当社作成

**VISIONary INNOVATION**で

未来をごきげんにする



Tsubo Lab

# 免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれており、これは本資料作成時点における当社の判断・予測に基づいています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではなく、実際の結果とは大きく異なる可能性があります。

将来の見通しには、経済環境の変化、業界動向、規制の変更、技術革新、競合状況など、様々なリスクや不確実性が含まれ取り、それらによって実際の業績や財務状況が大きく影響を受ける可能性があります。

また、本資料に記載された他社・第三者に関する情報や、それらを基に作成された情報は、一般に公開された情報及び信頼できると判断した資料に基づいておりましたが、当社はその正確性や適切性について独自に検証しておらず、いかなる保証も行わないものではありません。

なお、本資料に含まれる製品・パイプライン情報（開発中のものを含む）は、広告や医学的アドバイスを目的とするものではありません。